

議会だより もろっか

令和2年1月

令和2年 第164号

編集 議会広報編集特別委員会
発行 諸塚村 議会

もくじ	
新年のごあいさつ	2
令和元年度一般会計補正予算	3
一般質問	4～6
所管事務調査報告	7
議会活動報告	8

〒883-1301 宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代2683 ☎(0982)65-1130

新年のごあいさつ

新体制2年目に向けて

諸塚村議会議長 若本 幸徳

村民の皆様には、希望に満ちた輝かしい令和の初春をお迎えのこととお慶び申しあげます。年頭に当たり謹んで新年のごあいさつを申しあげます。

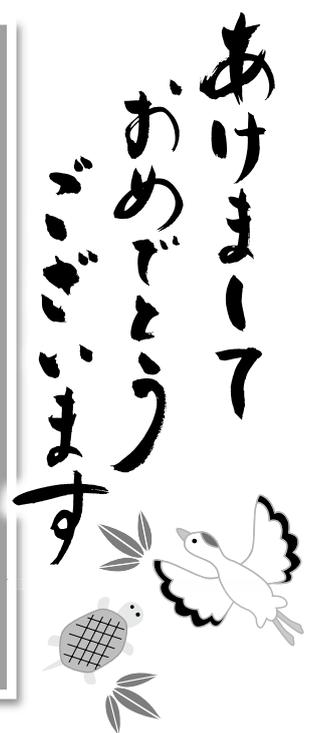
昨年の気象は、地球温暖化の現象とも言われた大型台風や集中豪雨により、全国各地で被害が続発し、改めて防災の大切さを感じた一年でした。一方、世相に目を移しますと依然として北朝鮮による核の脅威、日韓関係の悪化は今年に持ち越され、今後の動きが注目されます。国内での政治面は、第四次安倍再改造内閣にて本県では11年ぶりの大臣として江藤農林水産大臣が誕生となり、この先更なる活躍と本県の発展が期待されます。

さて、本村では、奇跡的にも昨年令和の幕開けとともに置村130年、婦人連絡協議会、村民文化祭70周年の記念すべき節目の年となりました。本村をここまで築き上げ私たちに託された偉大な先人に、深く敬意を表しますとともに、数年前からの少子高齢化によ

る人手不足を深刻に受け止め、改めてむらづくりの責務を痛感させられております。

しかし嘆いてばかりではいられません。昨年から人手不足の緩和に向けて建設中の福祉職員専門住宅も3月には、完成予定となっております。UIJターンの呼びかけや関係人口の掘り起こし等、村民総ぐるみでの人を迎え入れる体制は益々重要となっておりますが、その中には明るい兆しも見られます。議会も昨年5月の議会構成以来、新たな気持ちで活動に取り組んできました。今後、さらに団結して村政発展に全力を尽くして参りますので、昨年同様のご指導ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

本年が皆様にとりまして幸多き年でありますようにお祈り申しあげまして、新年のあいさつとします。



第4回定例議会

令和元年度一般会計補正予算 補正額:2億900万円

合計 36億1900万円

◆一般会計の主な補正内容◆ 土木施設災害復旧事業を可決

(単位) 万円

「総務」	・ 防災行政及び消防救急無線局再免許申請業務委託	120万円
	・ 国土強靱化計画策定業務	491万円
「企画」	・ 椎原橋トイレ改修工事	▲168万円
「住民」	・ 後期高齢者医療負担金	283万円
	・ せせらぎの里人材派遣補助金	▲467万円
	・ 養護老人ホーム措置費	236万円
「産業」	・ 未来につなぐ中山間地域農業支援事業	116万円
	・ 美しい景観を創出する銘木等保全事業	259万円
「建設」	・ 県単林道総合整備事業	▲365万円
	・ 村有住宅修繕料	250万円
	・ 村有住宅内部改修事業	400万円
	・ 住まい環境整備事業補助金	250万円
	・ 林業施設災害復旧事業	3,551万円
	・ 土木施設災害復旧事業	1億8,220万円

◆特別会計の主な補正内容◆

「国保」	・ 総務費	13万円
	・ 保健事業費	16万円
	・ 予備費	▲29万円
「介護保険」	・ 総務費	78万円
	・ 保険給付費(居宅介護・介護予防・高額医療サービス間の組替)	0万円
	・ 諸支出金	41万円
「診療所」	・ 総務費	▲422万円
	・ 医業費	▲8万円
	・ 予備費	360万円

◆条例の制定等◆

全て原案可決及び同意

「総務課」

- ・ 議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ・ 特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ・ 教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ・ 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
(いずれも人事院勧告に基づく改定)
- ・ 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
(特別職から交通指導員の職を削除)
- ・ 諸塚村消防団員の定数、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
(成年被後見人に関する法律改正によるもの)
- ・ 諸塚村会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について
(来年4月から会計年度任用職員制度施行に伴うもの)

「産業課」

- ・ 諸塚村森林環境譲与税基金条例の制定について
(森林整備等に要する費用に充てるための基金創設)

「住民福祉課」

- ・ 諸塚村福祉職員住宅設置条例の制定について
(建設中の住宅施設の設置及び管理に関するもの)

「人事案件」

- ・ 諸塚村教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて
(七ツ山 小川理智子氏を再任)



一般質問

今回3名の議員が質問をしました。

① 役場職員の村行事参加について



山本 多喜弥 議員

問 山本多喜弥議員
 村の行事である文化祭については、全職員での参加だと思いが、そのほかは、各課対応で全員ではないと思う。各行事とも、諸塚村の主要な行事で、村外から多くのお客様が来るが、喜んでいただくために、迎える方も多くいた方が良くと思うし、来村した人が喜んで、また来ようと思うのではないか。役場職員だけでは、みんなで諸

塚村を盛り上げて、諸塚村をアピールし、それが人口増加につながることもあるのではと思うが、村長の考えを伺いたい。



西川 健 村長

答 西川村長
 全職員並びに職員以外の協力が得ながら実施をしているものや、担当課のみで実施しているものもある。若手職員においては、率先して協力をいただいているところである。村外の方等からは役員の対応等について良い評価をいただいているところでもある。今後は村民の方にも、

行ってみたい、応援してみたいというような行事の案内も必要と思われる。職員の心身の健康管理に努めながら、出来るだけの行事への参加を促していく必要があると考える。

山本多喜弥議員

問 山本多喜弥議員
 人口減少の時に少しでも諸塚村を盛り上げていくためにも、諸塚村民全員で盛り上げないといけないと思っている。

先ずは役場職員が率先して、各行事に参加して盛り上げる。こういう精神というか考え方で、いてほしいと思う。

西川村長

答 西川村長
 一般質問に上がったということ職員も意識が付くと思うので、過度の負担にならないように、公務員・役場に携わる者として

できるだけ村民の皆さんとコミュニケーションを取ったり、努めてくださいと促していきたいと思う。



① 森林環境譲与税の用途及びその公表について



中田 政雄 議員

問 中田政雄議員
 森林環境譲与税の用途については、間伐や路網の森林整備やそれを促進するための人材の育成、担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発などとなっているようだが、本村においては、森林整備はかなり進んでいると見受けるが、森林環境譲与税の用途について村長の考えを伺いたい。

西川村長

答 西川村長
 今年度、本村の計画、予算としては、林地台帳の整備に500万円、林業従事者の安全装備の整備支援に160万円、林業大学生の通学補助に47万円、森林組合作業班・ウッドピア諸塚に対し、福利厚生、年末一時金などに対する補助に1,580万円、FSC、COC認証の審査委託料に200万円を計画している。

この執行の中で残額が出た場合は基金積み立て、木材利用の促進への活用も含んで進めている。村独自の取り組み、各種施策考えられることは単独でやっているが、その上乗せはできず新しいものを模索していく必要があるし、山林所有者・林業従事者の所得向上、生活の安定につながる使途にできたらと思っている。林業立村は揺るぎないものであり、これを核としたその他の産業を含めた循環型社会林業が継続されていくことに努めていく考えだ。

中田政雄議員

問 森林環境譲与税を活用するに当たっては、広く国民全体に対して説明責任を果たすことが求められているようだが、その公表についての方法も含めた考え方についても伺いたい。

西川村長

答 使途の公表についてだが、森林環境譲与税につ

いては、適正に使途されることが担保されるよう、市町村などは、インターネットの利用等により使途を公表しなければならぬこととなっている。要領については、これから県とも協議していきたいと思うが、法に基づきインターネット等で公表していく。5年後の令和6年度からの、森林環境税徴収のスタートの際に、国民の皆様が理解が得られるよう、森林環境譲与税の使途、公表については慎重に注視していきたいと思う。

中田政雄議員

問 この制度が法制化され、途中で見直しがあると思うが、後悔につながらないような使途を全員で考えていくべきと思っている。



① 村制130年の振り返りとこれからの諸塚村の進むべき方向性について



甲斐 光徳 議員

甲斐光徳議員

問 村制施行130年を迎えた諸塚村は、先人の大きな功績と村民の弛まぬ努力により私たちが安心して暮らせ、共存共栄ができる自然豊かな地域となり、これから先も、村政・自治公民館・議会と一体となった取り組みが継続されていくことが求められる。その様な中で、人口減少に伴う担い手不足や働き手の不足等、全国的に共通する問題もある中で、国は2040年を目途に、更なる合併に対する検討を行う協議会も進めている等、中山間地域、

特に人口減少が著しい過疎地においては、対等合併から吸収合併へと予測され、大変危惧される等危機感を覚える。今こそが、知恵を絞り、生き残りをかけ、時代の変化に遅れることなく先取りをしていくことが重要であり将来の諸塚村を導く政策が急がれる。これからの諸塚村の進むべき方向性について、村長の考えと意気込みを伺いたい。

西川村長

答 これからも、人口減少、高齢化、少子化、担い手不足と、困難な課題は山積している。しかし、これからの「林業立村」に象徴されるように、豊かな地域資源を大切に育て、活かしてきた先人に敬意を表し、この方針は堅持しつつ、諸塚村の次の100年、若い世代の未来につながる新しい地域づくりに取り組みなければならぬ。そのカギの一つが、長期的なビジョンを描ける、地域を担う人がづくりだ。人口減少そのものを止めることは難しいが、諸塚村内には若い有能な人材も多く、その質の向上を図ることは、とても有

効だ。今後も、諸塚未来塾等の社会教育による若者の人材育成策に引き続き取り組んでいく。

甲斐光徳議員

問 本村の村づくりに貢献した村民も高齢化の足取りをたどり、高齢者世帯の家庭もだんだんと多くなってきたおり、これから先の展望が極めて厳しい現状にあることも忘れてはならない。定住・移住も大切だが、まず地元村民が希望を持って安心して暮らせる形態がこれから先の大きな課題でもあり、村行政の施策も大変重要な要素になつてくると思っており、村民生活をどのように導いていくのか、現時点での考えをお願いしたい。

西川村長

答 子どもから高齢者まで生きがいを持って暮らせるような施策というものを今までどおりに進めて参りたい。そのためには村政座談会に代表されるように、多くの皆さんの意見を聞きながら、身近な課題を片付けながらやっていく。

甲斐光徳議員

問 これから先のことは中々厳しい大きな問題であるから、いろんな考え、いろんな知恵を出し合いながら、お互いに議論をしながら、よりよい諸塚村づくりに進めていけたらと思う。

② 諸塚村自治公民館 組織の機能強化について

甲斐光徳議員

問 諸塚村は、全国でも有数な自治公民館組織が独自の方法で、人づくり、地域づくり等、村行政と一体となった取り組みで、天皇杯受賞を始め多くの成果を挙げ、自ら自立を選択し村民一丸となって安心して住める諸塚村の創造を目指しているが、一方では、人口減少に伴うしわ寄せが、急激に身の回りに押し寄せているのも事実であり、地域によつては従来どおりの活動も無理が生じる等多くの課題がある。自治公民館組織の機能を遺憾なく発揮する

ことが、これからの諸塚村の将来につなげる大変重要なことだと思われる。機能強化を図るうえで、組織のプロセス等検討する時期に来ていると考えられ、自治公民館組織の全般的な考え方と、機能強化のための改変について教育長の考えを伺いたい。



甲斐 教育長

甲斐教育長

答 私たちの先人たちが営々と育て上げてきた本村の自治公民館活動を中心とした全村民参加によるむらづくりは、本村の最大の強みであり、今後とも継承していくべき高い価値のある社会システムであると考えます。自分たちの集落は自分

たちで守る、自分たちのことは自分たちで決めるといのが本当の自治であり、それは、本村においてのみならず、広く人間社会において普遍的な価値を持つものだと思う。

甲斐光徳議員

問 自治公民館なくして諸塚村はないと思うから、これから先人口減少は避けず、早め早めに検討する時期に来ていると思われる。あくまでも自治公民館が主体となって動くことが前提であり、行政からある程度の支援助言は大切だと思われる。

甲斐教育長

答 毎月行われている公民館長会あるいは振興協議会を通じて、こちらの方から提案したり、必要な情報はお伝えしたいと思います。



**みんなの議会です。
傍聴しませんか**

次の議会(定例会)は3月です。
お気軽においで下さい。



所管事務調査報告

総務・産業建設常任委員会

9月25日に神奈川県川崎市トカイナカヴィレッジの所管事務調査を行った。

川崎市北部はもともと農業が盛んな地域で、生田緑地や東高根公園など多摩丘陵らしい自然が多く残り、どこか懐かしい原風景と伝統が残る地域であり、トカイナカヴィレッジの松本傳左衛門農園はその中に存在している。

土地の所有者であり筆頭メンバーの村長は、松本家11代目の当主で明治大学名誉教授の松本穰氏である。大学を退官後、この農地と里山を活かして面白いことをやろう！と思い立ち、メンバーを集めて2017年3月から運営を始めた。その拠点となる新役場の建物の一部に諸塚村産材を使っ

ている。完成は間近で2階建ての事務所は宿泊もできる施設となっている。助役の西山氏による

と川崎市という立地に富んだエリアを利用し、ここから諸塚村の良さを豊かさを発信し、子どもたちを含めた都市と田舎の交流を通して、さんさき坂カフェ(森祐介氏の母親経営)のフイールドワークの場として、また、第二のハブとしてミニ諸塚村をこのトカイナカヴィレッジで移住フェアとは違う丁寧なコミュニケーションや情報提供が実現できるのではないかと話されていた。

二年ほど前に池の窪に宿泊の際に出会い、知り合いとなったことが今回の視察となった訳であるが、いずれにしても都市との交流窓

口のツールとして、大いに期待できる手応えを感じた思いも含めて視察の報告とする。



トカイナカヴィレッジ

10月30日に熊本県美里町福祉保健センター「湯の香苑」の所管事務調査を行った。

平成11年3月、町内4小学校が統合し3小学校が廃校となり、その内の1校をリニユーアルして保健福祉センターに転用し、平成12

年4月にオープンした。同苑は鉄筋コンクリート1部2階建、床面積は1,658㎡で、元の校舎1階部分に浴室など水回り部分200㎡を増床した以外の基本構造はそのままに、内装には木材をふんだんに使い、温かみのある雰囲気醸し出している。

事業として、温泉入浴や給食サービスのデイサービスセンター、ホームヘルプサービス、介護予防事業、保健事業を行い、自立高齢者が生活できる入居施設(定員7人6室)を備えた高齢者福祉センター、いこいの場として地域交流スペースなどがある。総工費は5億8040万円で、1億2千608千円の国県補助金を受け、施設運営は美里町社会福祉協議会が行っている。(保健部門を除く)。

今後、諸塚村も廃校となる小学校、既に廃校となっ

ている小学校があるが、各地の前例を参考に有効活用を期待し報告する。



美里町福祉保健センター



議会活動報告

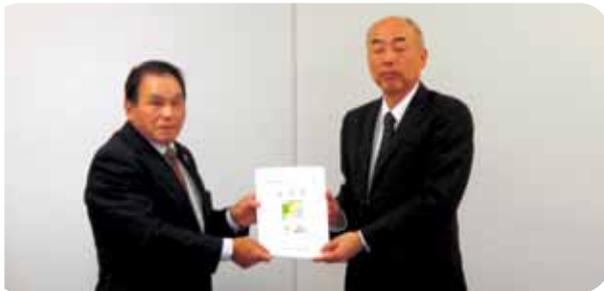
月	日	行事名	参加者	場所
11	5	広域連合議会運営委員会	総務委員長	日向市
	6	県議会総務政策常任委員会政務調査	議長	役場
	11	人口減少対策特別委員会	全員	役場
	13	議長全国大会・郡議長会政務調査(～15日)	議長	東京都・群馬県
	15	新過疎法制定実現総決起大会	議長	東京都
	18	入郷地区衛生組合議会	総務委員長	美郷町
		広域連合議会	総務委員長	日向市
		九州地方整備局への要望活動	議長・産建委員長	福岡市
	19	幹部議員研修会	副議長、総務委員長、議運委員長	宮崎市
	21	三村議会協議会総会	全員	西米良村
	28	広報研修会	議長・広報委員	宮崎市
29	議会運営委員会	全員	役場	
	議会全員協議会	全員	役場	
12	6	第4回定例議会	全員	議場
	12	五月会研修会(公民館長)	全員	中公
	19	郡議長会臨時総会・研修会	議長	日向市



九州地方整備局への要望活動



建設中の福祉職員住宅



九州地方整備局への要望活動

随想

古希同窓会

梅田 義輝

先だつて、久しぶりに「古希」を祝う同窓会があり参加した。古希とは、中国唐時代の詩人、杜甫の曲江詩の一節によるものとされています。むかし「70歳」を迎えられるというのは非常に希だという意味から古希がお祝いされるようになったと言われています。

諸塚中学校を昭和39年度に卒業した私たちですが、卒業するとき、170名ほどいた同級生も、いろいろな事情から出席者は56名ほどであった。しかし、他の同窓会の話を聞くと、よく集まった方ではと聞く。内男25名、女31名とここでも女子会の元気が目立っていました。

県外からの出席者も多く、久しぶりに会った同級生の現況報告や思い出話に花が咲いた。古希だけに体がコキコキなるという話から、テッペンが薄くなっている者も(人のことは言えないが...)、植林はこのハゲ山からやって見たくなる奴も...その昔、美貌を誇った女子会も...いやはやこまでよく頑張ってきたものだ、アツパレをやりたい気持ちだ。年をとったせいとか、以前とは違った落ち着いた雰囲気の良い同窓会であった。

村当局から、金一封のご支援もいただいた。目的に添って使わせていく中で、少しだけふるさと諸塚の話させたいいただきました。

編集後記

新年おめでとうございます。

令和元年も過ぎて新たな年となります。

元年は災害が多く発生し、温暖化の影響を一番多く受けた国が日本だったそうです。

新しい年が皆様にとってより良き年になることを御祈念申し上げますとともに、俳人「高浜虚子」の句「去年今年貫く棒の如きもの」なる句を添えて編集後記とします。(尾形)

(編集委員)

- 山本多喜弥
- 尾形 浩一
- 甲斐 光徳
- 田原 尚美

議会傍聴してみませんか?

今回の定例会は3月4日(水)開会予定です。
心よりお待ちしております。
お問い合わせ：議会事務局
TEL 65-1130